

令和3年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

第2回学校関係者評価委員会

日時：令和4年1月13日（木）19：00～20：00

場所：八田小学校 パソコン室

「教職員自己評価」「児童・生徒アンケート」「保護者アンケート」とも前期同様肯定的評価の割合が高く、おおむね満足できる状況にあると言える。ただ、そのことに満足することなく、そこから見えてくる課題や改善点を探っていくことがより良い「八田小中学校」にしていくうえで大事なことだと考える。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、徐々に平常を取り戻し、各種行事や学習も新たな形ではあるが、ほぼ予定どおり実施することができた。コロナの影響が今後どんな形で児童生徒に出てくるかは未知数であるが、今できることに全力で取り組んでいくことが大切である。学校関係者評価委員会でも出された意見をもとに、更なる改善の糸口を見つけ出していきたい。

1. 小中一貫教育について

コロナ禍ということもあるが、「小中一貫教育」の理解がなかなか浸透しない現状が見える。学校側から再度説明し、保護者の率直な意見を聞く必要があるのではないかと委員から発言があった。学校側の説明として、4本の柱（学習・子ども・教職員・学校家庭地域をつなぐ）を中心に据えていること。特に、「学習をつなぐ」に力を入れ、学力向上を目指し、小中での学習スタイルの統一を図っていることや中学校教師の小学校への乗り入れを行っていることが紹介された。保護者からは、取組に対する理解の言葉と同時に困難な状況ではあるが、積極的に進めてほしいとの発言があった。

2. 学力向上・家庭学習について

家庭学習の在り方について、「授業との連動」ということを考えていると、学校側から説明があった。委員の方から「野球の試合に出たが、ヒットが打てなかった。そこで、自主的に家で素振りをする、というイメージですね。」という発言があり、家庭学習のイメージを参加者で共有することができた。教師も質の高い授業を目指し努力をしているが不十分な点があったり、児童生徒自身もどこから手を付けてよいか悩んでいたりして、思うような結果になっていない部分がある。

「家庭での読書」が思うような結果になっていない現状を考えると、学校での取組を更に進めていく必要がある。カリキュラム上に今まで以上に意図的に位置づけ、「一冊の本を読み終える」という達成感を味わってほしい。

家庭学習や読書（家庭）について、各家庭での取組の様子を紹介し、少しでも取組がしやすい環境を作っていくことが大事だという意見が出された。

3. ICT について

一人一台端末が配布され、児童生徒の習得状況は予想以上のものがあり、早い段階からの利用のメリットとして考えられる。ただ、ノートに書くなどの学習も大事であり、発達段階や学習内容を考慮して、目的に応じた活用が必要ではないかという意見をいただいた。

小学校においては、「携帯・スマホ」の所持率が昨年度に比べほぼ倍増している。学校でのタブレットの利用と併せ、「情報教育モラル」の徹底を図る必要がある。

タブレットの家庭での利用可能時間(20:00~7:00 は利用不可)について、中学生にとって10時終了は時間的に厳しいので改善を望む意見が出された。

4. まとめ

新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、少しずつ「日常」を取り戻し、児童、保護者、教職員が力を合わせ、「新しい」学校生活を作りつつある。いろいろなことを前向きにとらえ、この危機を乗り越えていきたいと考えている。

小中連携に関しては、コロナため連携の機会が減っているなどマイナス要素がたくさんあることは否めないが、実践をとおして「強み」や「良さ」を感じ共有していく必要がある。本年度立ち上げた「小中一貫教育研究会」を切り口に何よりもまず、教職員自身が取組を進め実感することが大事だと考える。

また、家庭学習については、研究だより等で「家庭学習の重要性」を知らせたり、小中で連携して同時期に「パワーアップ週間」を設定したりする対応をすでに実施しているが、さらに家庭学習の大切さの理解を深め、取組を広めていく必要がある。

ICTについては、最先端のツールの良さと危険性を併せて学習し、上手に使いこなしていく力こそが、今の子ども達には求められている。児童生徒、保護者、教職員で力を合わせ八田地区にあった解決策・利用方法を見出していきたい。

学校関係者評価委員会の中で出された意見をもとに、コロナのことを前向きにとらえ、この危機を乗り越えつつ学校改善に向けて取り組んでいきたいと考える。